

I. 前史¹

- [ヴェルサイユ条約](#) 227 条 “a special tribunal”
 - 裁判か à la Napoléon か
- 連合国による Kaiser 引渡要求 [The Times, 19 January 1920, p. 12.](#) (ページ中ほど)
 - “the premeditated violations of international treaties, as well as the systematic ignoring of the most sacred laws of international justice”
- オランダによる引渡拒否 [The Times, 24 January 1920, p. 12.](#) (ページ右端の記事)
 - “If in the future it was in the intention of the nations to establish...”

II. 国際軍事裁判

- [ニュルンベルク](#)
 - 法的根拠 [Agreement for the Prosecution and Punishment of Major War Criminals of the European Axis \(Charter of the International Military Tribunal\)](#), 8 August 1945.
 - ◇ 1 条・2 条、附属の Charter
 - ◇ ドイツの同意は?
 - [Act of Military Surrender by Germany, 8 May 1945](#) 3 項
 - Declaration regarding the Defeat of Germany and the Assumption of Supreme Authority with Respect to Germany, 15 June 1945, TIAS 1520, [3 Bevens 1140](#) 前文 2 項・5 項、13 条(b)
 - 裁判所の構成
 - ◇ 裁判官選任方法 Charter 2 条
 - 権限
 - ◇ 対象犯罪 Charter 6 条
 - 法的地位に関する規定なし
 - [判決](#)
- [東京](#)
 - 法的根拠
 - ◇ [Instrument of Surrender, 2 September 1945](#). 5 項・6 項
 - ◇ Communiqué on the Moscow Conference, 27 December 1945, [UNTS, vol. 20](#), p. 259, No. 319, II.B.5.
 - ◇ [Special proclamation by the Supreme Commander \(Charter of the International Military Tribunal for the Far East²\)](#), 19 January 1946.

¹ William A. Schabas, [The Trial of the Kaiser](#), Oxford University Press, 2018.

² 27 頁以下の 1946 年 4 月 26 日付の Charter を参照。

- 裁判所の構成
 - ◇ 裁判官選任方法 2 条
- 権限
 - ◇ 対象犯罪 5 条 a, b, c
- 法的地位に関する規定なし
- [判決](#)
- [対日平和条約](#) 11 条
- 批判
 - 不公平性 “Victor’s justice”
 - 罪刑法定主義違反
 - ◇ 1920 年のオランダ回答

III. アドホック刑事裁判所

A. 安保理決議による設立 ICTY/ICTR →IRMCT

- [ICTY 決議 827 \(1993\)](#) / [ICTR 決議 955 \(1994\)](#) → [IRMCT 決議 1966 \(2010\)](#)
 - なぜ安保理決議？
- 裁判官選任方法
 - [ICTY 規程](#) 13 条 bis、[ICTR 規程](#) 12 条 bis、IRMCT 規程 (決議 1966) 10 条
- 対象犯罪
 - ICTY 規程 2 条から 5 条、ICTR 規程 2 条から 4 条、IRMCT 規程 2 条
- 国内裁判所との関係
 - ICTY 規程 9 条 2 項、ICTR 規程 8 条 2 項、IRMCT 規程 5 条 2 項
- 裁判所の法的地位
 - 安保理決議による設立
 - 特権免除 ICTY 規程 30 条、ICTR 規程 29 条、IRMCT 規程 29 条
 - 予算 ICTY 規程 32 条、ICTR 規程 30 条、IRMCT 規程 30 条
- 批判
 - 安保理による権限踰越？

- ◇ [Prosecutor v Tadić, Trial Chamber, 10 August 1995.](#) 【判例国際法 (第 3 版) 97】
 - 平和に対する脅威認定 (憲章 39 条) は政治判断 パラ 21-24
 - 裁判所設立は 41 条で可能 パラ 25- 35
- ◇ [Prosecutor v Tadić, Appeals Chamber, 2 October 1995.](#) 【判例国際法 (第 3 版) 97】
 - 政治問題の法理は適用されない パラ 25
 - 平和に対する脅威認定
 - ◆ 安保理が全面的裁量を有するのではない パラ 29
 - ◆ 本件では武力紛争あり パラ 30
 - 裁判所設立は第 7 章に基づき可能 パラ 39-40
- 罪刑法定主義
 - ◇ ICTY 規程 3 条・ICTR 規程 4 条柱書 “but not limited to”
 - ◇ 「犯罪の構成要件……などの規定には不明確さが残っているので、こうした機関に被疑者を引き渡すことは、憲法上問題であるとの主張」³

B. 混合裁判所 SCSL・ECCC

● [SCSL](#)

- 法的根拠
 - ◇ [安保理決議 1315 \(2000\)](#) 1 項
 - ◇ [国連とシエラレオネとの条約](#) (2002) 1 条
- 裁判官選任方法 [SCSL 規程](#) 12 条 1 項
- 対象犯罪 SCSL 規程 2 条から 5 条
- 裁判所の法的地位 [国連とシエラレオネとの条約](#) 8 条・9 条・12 条・13 条

● [ECCC](#)

- 法的根拠
 - ◇ [総会決議 57/228B](#)
 - ◇ [国連とカンボジアとの条約](#) (2003) 2 条
 - ◇ [裁判所設立法 \(2004 改正法\)](#)
- 裁判官選任方法 条約 3 条 1 項
- 対象犯罪 条約 9 条
- 裁判所の法的地位 条約 18 条から 20 条

³ 伊藤哲夫「旧ユーゴ国際裁判所の法的な枠組みと問題点」[立教法学](#) 40 号 (1994 年) 153 頁、281 頁。